

令和元年6月25日現在

機関番号：42505

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2014～2018

課題番号：26750355

研究課題名(和文)ドイツにおける匿名の母子支援と赤ちゃんポストに関する研究

研究課題名(英文)Study of anonymous support for mother and child and Babyklappe in Germany

研究代表者

柏木 恭典(Kashiwagi, Yasunori)

千葉経済大学短期大学部・その他部局等・准教授

研究者番号：80461771

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の成果は、日本ではほぼ知られていないドイツの匿名支援と赤ちゃんポストの理論と実践を明らかにしたことです。ドイツを中心に、2000年頃から始まった匿名での母子支援の現状を明らかにすると共にドイツ語圏でこの新たな匿名の母子支援がどのように議論されてきたかを論じることができました。その中で大きな役割を果たしてきたのが「匿名出産」と「赤ちゃんポスト」です。しかし、この両者には権利上の大きな問題がありました。すなわち「出自を知る権利」の問題です。この問題を克服するために考案されたのが、後にドイツやスイスで合法化された「内密出産」です。この一連の取り組みの内実について詳しく述べることができました。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義は、匿名の母子支援の理論および赤ちゃんポストに関する理論の基礎を築いたことです。これまでこのテーマに関する研究はほぼありませんでした。とりわけ「赤ちゃんポスト」と「内密出産」の学術研究は日本国内ではほぼ存在せず、これからの議論の基盤を与えるものとなりました。

本研究の社会的意義は、日本で唯一の赤ちゃんポスト「このとりのゆりかご」について議論するための資料(論文、書籍)を提供することができたことです。本研究の成果は、テレビ、ラジオ、新聞、雑誌等においても示すことができました。この研究を通じて、望まない妊娠、駆け込み出産、児童遺棄、嬰兒殺し等への対応策を示すことができました。

研究成果の概要(英文)：The achievement of this study was to reveal the theory and practice of "anonymous support of mother and child" and "Babyklappe (baby box)" which have been almost unknown in Japan. This study could discuss the current state of anonymous support which has been started in Germany 2000. and then it could try to explain how is this new anonymous support discussed from the point of view of the study of Babyklappe in Germany. Above all, it was very important to reveal the playing rolls of "Anonymous Birth" and "Babyklappe". They had a serious problem on children's right to know the name of their parents and origins. In order to resolve this problem, an alternative possibility was considered and legalized in Germany, namely "confidential birth". This study revealed the structure and the process of this confidential birth.

研究分野：こども学

キーワード：赤ちゃんポスト 匿名出産 内密出産 母子支援 匿名性 出自を知る権利 シュテルニバルク 幼児教育

1. 研究開始当初の背景

本研究開始当初の背景としては、日本国内において「赤ちゃんポスト」の言説がほぼ存在しない状況だった。実際の取り組みとしては、熊本県の「このとりのゆりかご」が既に存在していたものの、その是非をめぐる議論のための「言説」はほぼ皆無に等しかった。この赤ちゃんポストは、2000年にドイツのハンブルクで生まれたものだった。その設置者は、ハンブルク市内に15園ほどの幼稚園(こども園)をもつ民間教育団体シュテルニパルクだった。このシュテルニパルクとはいったいどのような幼稚園なのか。なぜこのシュテルニパルクは赤ちゃんポストを設置するに至ったのか。その当時の社会的な受け入れはどうだったのか。また、この取り組みとほぼ同時期に実施されるに至った「匿名出産」とは何か。そして、この「匿名出産」に代わる「内密出産」とは何なのか。言葉としては日本でも既に一部で認知されていたが、それが具体的にどのようなものなのかを示す先行研究は存在していなかった。

2. 研究の目的

本研究の目的は、ドイツで議論されている匿名出産と赤ちゃんポストとそれに代わる内密出産(Vertrauliche Geburt)の内実を明らかにすることと、我が国においても今日話題となっている児童虐待、児童殺害・遺棄等に対する新たな支援の可能性を探ることにあつた。それは同時に、妊婦と子どもの「権利」を守るための基礎研究でもあつた。ますます子育てが複雑化し、その対応が困難となる一方で、虐待等による児童相談所への相談件数も過去最大となっている。またこれらの問題に包括的に取り組むドイツのシュテルニパルクは、単に児童福祉の問題と捉えてはならず、「過去の総括」を目指す教育学的関心に基づいている。これらの全容解明が本研究の大きな目的であつた。

3. 研究の方法

本研究の方法としては、理論研究的なアプローチと実践研究的なアプローチを併用することにした。

(1) 理論研究としては、主に赤ちゃんポスト・匿名及び内密出産に関する法的、倫理的、医療的、教育学的な議論を文献研究としてきちんと整理し、それぞれの学術的視点からいかなる議論が可能なのかを包括すると共に、その理論的 - とりわけ支援の方法論的 基盤の構築をねらつた。また、これら一連の問題群から新たな教育学理論(アウシュヴィッツ以後の教育、民主主義への教育、解放教育学等)を教育哲学的・教育思想史的に明らかにするよう努めた。

(2) また、実践研究としては、本研究の特性上数値化することのできない研究テーマなので、主に質的研究、すなわちフィールドワーク、インタビュー調査、個別の事例研究的なアプローチを採択した。赤ちゃんポスト、匿名・内密出産の担い手となる実践者との「対話」を通じて、理論研究では見えてこない現実的な側面について明らかにすることを目指した。インタビューはICレコーダーで録音し、文字起こしを行い、「証言」の収集に努めた。

4. 研究成果

(1) 本研究の成果は、日本ではほぼ知られていないドイツの匿名支援と赤ちゃんポストの理論と実践を明らかにしたことである。ドイツを中心に、2000年頃から始まった匿名での母子支援の現状を明らかにすると共に、ドイツ語圏でこの新たな匿名の母子支援がどのように議論されてきたかを論じることができた。

(2) その中で大きな役割を果たしてきたのが「匿名出産」と「赤ちゃんポスト」である。しかし、この両者には権利上の大きな問題があつた。すなわち「出自を知る権利」の問題である。この問題を克服するために考案されたのが、後にドイツやスイスで合法化された「内密出産」である。この一連の取り組みの内実について詳しく述べることができた。

(3) また、赤ちゃんポスト設置の背景には、「過去の総括」および「生命の尊厳」をめぐるドイツの思想及び哲学がある、ということを示すことができた。「アウシュヴィッツの悲劇を二度と繰り返さない」「アウシュヴィッツの悲劇は二度とあってはならない」という思想から、生命の尊厳の思想が強化されてきたドイツであるがゆえに、「生きるに値しない命」を否定し続けることが極めて重要な意義となつていた。

(4) ゆえに、ドイツでは、全国的に「アウシュヴィッツ以後の教育」の実践が行われてきた。本研究では、このアウシュヴィッツ以後の教育の理論と実践についても論究することができた。赤ちゃんポストを創設したユルゲン・モイズィツヒもこのアウシュヴィッツ以後の教育を実施する当事者であり、また、この観点から「赤ちゃんポスト」という発想が生まれた、というこ

とも明らかにできた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 7 件)

柏木恭典、ドイツにおける「アウシュヴィッツ以後の教育」の理論と実践、千葉経済大学短期大学部研究紀要、査読無、15号、2019、19-28

柏木恭典、恥辱の再発見：敷居の低い支援の拡充をめざして、千葉経済大学短期大学部研究紀要、査読無、14号、2018、43-53

柏木恭典、赤ちゃんポスト以前のユルゲン・モイズィツヒの幼児教育論：ドイツの反権威主義的教育学とアウシュヴィッツ以後の教育、日本保育学会、査読有、56巻、2018、369-379
DOI: https://doi.org/10.20617/reccej.56.3_81

柏木恭典、緊急下の母子への匿名支援：ドイツの赤ちゃんポストと内密出産の議論を踏まえて -、医療と社会、査読無、27巻、2017、135-148
DOI: <https://doi.org/10.4091/iken.27.135>

柏木恭典、「虐待」に先立つ問い：児童虐待と虐待死の差異に基づいて、千葉経済大学短期大学部研究紀要、査読無、12号、2016、1-11

柏木恭典、シスター・モニカと緊急下の女性への匿名支援、千葉経済大学短期大学部研究紀要、査読無、11号、2015、11-24

柏木恭典、シュテルニパルクの子育て支援と赤ちゃんポスト - ドイツにおける匿名の母子支援プロジェクト、日本保育学会、査読有、52巻、2014、81-91
DOI: https://doi.org/10.20617/reccej.56.3_81

〔学会発表〕(計 4 件)

柏木恭典、恥辱の再発見 - ドイツの匿名支援の歩み -、三井財団および全国妊娠 SOS ネットワーク、2017

柏木恭典、ドイツの赤ちゃんポスト、特定非営利活動法人こうのとりのゆりかご IN 関西、2017

柏木恭典、赤ちゃんポスト研究の最前線：生命保護と権利擁護の狭間で、宗教倫理学会、2016

柏木恭典、匿名支援の方法としての同伴、日本理論心理学会、2014

〔図書〕(計 1 件)

柏木恭典、蓮田太二、名前のない母子をみつめて - 日本のこうのとりのゆりかご ドイツの赤ちゃんポスト -、北大路書房、2016、200

〔産業財産権〕

出願状況 (計 件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年：

国内外の別：

取得状況 (計 件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名：

ローマ字氏名：

所属研究機関名：

部局名：

職名：

研究者番号（8桁）：

(2) 研究協力者

研究協力者氏名：

ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。